< 全国被災地語り部シンポジウム in 東北 ～教訓を未来へ語り継ぐ～ >

３月２１日（月・祝）～２２日（火）に、南三陸ホテル観洋で開催された「全国被災地語り部シンポジウム in 東北」が開催された。

このシンポジウムは、①東日本大震災から５年が経過し、今後さらに震災の風化防止と後世への継承など、様々な取り組みに関する意見交換、②復興と防災を基本としながら、復興まちづくりに不可欠な地域活性化にどう取り組むか、③６年目の新しい復興スケジュールに向けて、全国の被災地語り部の皆さまのご協力を得ながら、先例に学び、今後の仕組みづくりや東北から全国への情報発信の足掛かりとすることを目的に「全国被災地語り部シンポジウム in 東北」実行委員会が主催、南三陸ホテル観洋の共済で開催された。

図-1：参加者、講演の様子

３月２１日には、【第１部】震災を風化させないための語り部バス運行、【第２部】パネルディスカッション、【第３部】①東日本大震災語り部、②南海トラフ等今後の大地震へ向けた語り部、③次世代に繋ぐ語り部のワークショップ２２日は【第４部】震災を風化させないための語り部バス運行、【第５部】津波避難システム社会実験が催された。

「津波避難システム社会実験」では、（一社）東北地域づくり協会の技術開発支援テーマで開発した「緊急津波避難情報システム」を紹介した（図-１は、講演への参加者と質疑応答の風景）。

この講演ではシステム開発の背景、システムの概要、社会実験例、実運用事例紹介、システムの紹介ＤＶＤを流し、講演の最後に、南三陸ホテル観洋の従業員を対象とした避難訓練を実施した。

図-2：避難完了状況

訓練は宮城県沖でマグニチュード８の地震が発生し、高さ２mの津波が来るとの想定で実施した。参加した従業員は２６名でホテルが指定している避難場所に宿泊者を避難誘導し、避難完了が確認できたら避難完了の操作を行い、津波解除情報を配信して終了した。

図-２は地震情報、津波情報、および訓練参加者の避難完了状況結果を示す。今回の訓練では、参加者全員が避難出来たことを示し、過去の訓練では避難完了出来た割合の最高が７０％を遥かに超えた結果となった。これは、東日本大震災でホテル観洋が避難場所として宿泊者以外の人も受け入れた経験から、日頃の訓練の重要性を反映したものと考えられる。